

四国の産業観光資源

住友グループ「別子銅山記念館」 (新居浜市)

★施設・見学の概要

別子銅山は、1691年の開坑から1973年の閉山までの282年間に、総産出鉱量3,000万トン、含銅量約72万トンを産出した我が国有数の大鉱山であった。また、3世紀近くも「住友」という同一の民間事業者により事業が継続されたことも世界に例のない鉱山である。

その結果、地元新居浜には、鉱山事業をはじめ、銅製錬の副産物を原料にした肥料製造、鉱山用産業機械の開発など幅広い産業が興り、それぞれ住友金属鉱山(株)、住友化学(株)、住友重機械工業(株)など、今日の住友グループの中核をなす企業群が集積することとなった。

これら住友グループ21社が建設・運営する別子銅山記念館では、銅山の歴史を辿る貴重な史料約300点が展示されている。



坑内を彷彿させる半地下構造の別子銅山記念館

所在地	新居浜市角野新田町3丁目13
見学内容	別子銅山に関する史料約300点
定員	特になし。(但し、説明案内が必要な場合は約20名まで)
所要時間	約1時間
公開時間	9:00~16:00
休業日	月・祝日、10/17、12/29~1/3
予約	団体来館や、説明案内が必要な場合は、事前予約が必要。
料金	無料
予約/問合せ先	TEL: 0897-41-2200
アクセス	新居浜 IC から車で約10分 JR 新居浜駅から車で約10分

(別子銅山記念館館長 田尾邦雄 氏)

一館内の展示内容はどのようなものですか。

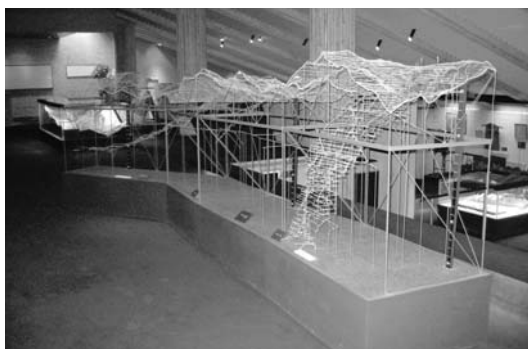
館内には、住友の歴史を紹介する「泉屋」(泉屋は江戸時代の住友家の商号)、開坑以来の出来事を辿る「歴史」、鉱石などの「地質鉱床」、銅山で働く人々の暮らしを知る「生活風俗」、採鉱機材が並ぶ「技術」という5つのコーナーがあります。別子銅山は住友が一貫して経営してきたため、江戸期からの史料が散逸を免れ、この記念館に残されているのです。

一主な見所を教えてください。

沢山ありますが、泉屋コーナーでは、粗銅から精錬して各種の型に作られた精銅を、是非ご覧下さい。銅山開坑年につくられた薄い長方形の「丁銅」(ていどう)やコイン状の「丸銅」、棒状の「棹銅」などがあります。

歴史コーナーでは、銅山の接収を図ろうとする明治政府に民営存続を認めさせるとともに、銅山の近代化事業を進めた広瀬幸平、製錬所の煙害問題解決や植林などを通じた環境改善に心血を注いだ伊庭貞剛など、歴代総理事の資料は必見です。

同じ歴史コーナーの別子銅山坑道模型では、総延長約700km、海面下約1,000mという坑道の壮大さが一目瞭然にご理解頂けます。



別子銅山坑道模型

一読者へのメッセージをどうぞ。

昨今の産業遺構ブームもあり、多くの方にお越しいただいています。事前にご予約頂ければ説明案内いたしますので、ご相談下さい。